

指導資料

生活 第17号

 鹿児島県総合教育センター
平成28年10月発行

対象
校種

幼稚園 小学校 中学校
高等学校 特別支援学校

いいこといっぱい！スタートカリキュラム

ー生活科を中心に、主体的に学ぶ意欲を高めるためにー

平成27年1月、国立教育政策研究所は「スタートカリキュラム スタートブック」を発行した。小学校に入学した子供たちの「安心・成長・自立」を支え、みんなにとって「いいこといっぱい」のスタートカリキュラムの具体的な編成の進め方と実践例を紹介する。

1 スタートカリキュラムの効果

スタートカリキュラムを実施する意義は、単に「小1プロブレム」の解消を図るだけにとどまらない。「スタートカリキュラム スタートブック」では、スタートカリキュラムを「幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラ

ム」としている。つまり、小学校入学当初に、生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、幼児期の学びと育ちを踏まえながら小学校教育へ円滑につないでいくことは、子供たちが安心して自信をもって成長し、自立への基礎を培うことにつながり、そのことが、中学年、高学年、中学校へ進級・進学した際にも、豊かで瑞々しい意欲的な学習をすることにつながっていくのである。

ゼロからのスタートじゃない！

子供は幼児期にたっぷり学んできています。

幼児期 学びの芽生え

- ・楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- ・遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく。
- ・日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わる。

幼児教育

- ・5領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)を総合的に学んでいく教育課程等
- ・子供の生活リズムに合わせた1日の流れ
- ・身の回りの「人・もの・こと」が教材
- ・総合的に学んでいくために工夫された環境構成 など

スタートカリキュラム

自立

成長

安心

児童期 自覚的な学び

- ・学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間(休憩の時間等)の区別が付き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
- ・各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- ・主に授業の中で、話したり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。

小学校教育

- ・各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- ・時間割に沿った1日の流れ
- ・教科書が主たる教材
- ・系統的に学ぶために工夫された学習環境 など

図1 小学校におけるスタートカリキュラムについて(「スタートカリキュラム スタートブック」から抜粋)

「スタートカリキュラム スタートブック」には、「やってみると、こんないいこと！」（表1）として、スタートカリキュラムのよさが挙げられている。

表1 やってみると、こんないいこと！

一 年 生 成 長	安 心	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼稚園・保育所等の生活に近い活動を取り入れるので、安心して学習に取り組むことができる。 ○ 分かりやすく学びやすい環境を構成することで、安心して学校生活を送ることができる。 ○ 安心や楽しさが生まれ、いわゆる小1プロブレムなどの予防や解決にもつながる。
	成 長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動や体験を通すことで、学びに向かう力を育むことができる。 ○ 安心して生活することで、自分のもっている力を発揮することができる。 ○ 先生や友達に認められることで、自信や意欲が生まれる。
	自 立	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で考え、判断し行動するようになり子供の自立につながる。 ○ 6年間の学びの基盤をしっかりとつくることことができる。 ○ 夢や希望をもち、前向きに生活していくことことができる。
他 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生と関わることで、みんなが仲良くなる。 ○ 1年生のよさが分かり、一人一人を大切にす気持ち育つ。 ○ 上級生としての自覚と責任が生まれる。 	
一 年 担 任	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの見方や指導観が変わり、教師力が高まる。 ○ 特別な教育的支援が必要な子供にも、効果的な指導ができる。 ○ 初めての1年担任も安心して指導を進められる。 	
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体で取り組むことで、スムーズに小学校生活に適応していく子供の姿が見られる。意欲的に活動する子供の笑顔があふれる学校になる。 ○ 6年間を見通した小学校教育全体の改善へとつながる。 	
保 護 者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活への不安が解消され、安心して学校に送り出すことができる。 ○ 学校への理解と信頼につながり、協力が得られる。 ○ 子供が自ら成長する姿を通して、保護者の意識が高まる。 	

スタートカリキュラムの基本的な考え方については、指導資料1656号で詳しく述べているので参照されたい。

(1) 「学び」をつなぐことの重要性

スタートカリキュラムの作成に当たっては、幼児期に育まれた学びの芽生えを小学校が引き継いで伸ばしていくという考え方が大切である（幼児期に育まれる「学びの芽生え」については、指導資料第1769号参照）。幼児期には伸び伸びとした環境で自己肯定感を育むことを目指しているが、小学校に入学して慣れない環境やルールによって萎縮してしまうと、子供はそれまで自信をもってできていたことまでもできなくなってしまうことがある。園では最年長のリーダーとして活動していたにもかかわらず、小学校で最年少としてだけ扱われてしまうと、子供は大きなギャップを感じる。幼児期の学びを小学校につなげていくためには、教科の区切りによる枠組みの中で活動するだけでは難しく、教科学習の在り方を捉え直し、特に入学当初は、可能な範囲で教科の枠を超えて自由度の高い教育活動を展開することが必要になる。

(2) スタートカリキュラム作成の留意点

作成作業を進めるに当たっては、当センターWebサイトにある「幼小接続期カリキュラム」を参考にしてほしい。具体的には以下の点について留意する。

ア 週ごとにねらい(テーマ)を設定する。

入学した子供たちは、学校の教室配置や校庭、遊具などの物理的な環境から、先生や友達などの対人的な環境、

2 スタートカリキュラム作成のポイント

学習内容や学習形態などの社会的・文化的な環境への適応という段階を踏みながら新しい環境に適応していくと考えられる。そこで、子供たちが小学校生活に徐々に適応することができるように、「対象への気付き」から「自分自身への気付き」に至る週ごとのテーマを設定していくとよい（図2）。

テーマ(各教科等を見くもの)			
週	人とのかわり	学習にかかわること	基本的な生活習慣
学習指導のポイント			
やさしさいっぱい ふぞくしよう!			
第1週目	・担任の先生を知る。 ・先生や友達とあいさつしたり話したりする。	・「はい」と返事する。 ・先生の話を聞く。	・あいさつができる。 ・トイレを正しく使う。 ・靴箱やロッカーの使い方を知る。
○ 生活や学習への安心感をもたせるために、必要な基本的な習慣を、子どもの意欲を大切にしながら指導していく。			
○ 学校内における多様な人・もの・こととの出合いを豊富にする。			
たのしさいっぱい ふぞくしよう!			
第2週目	・友達と仲良く遊ぶ。 ・学年部や専科等の先生方を知る。	・椅子に座って学習する。 ・校内の施設を知る。 ・教科等の学習を知る。	・授業開始のあいさつ ・学習や給食の準備 ・体育服への更衣 ・整列 等
○ 一週目に出合った人・もの・ことに対するその子なりのよさを実感するために、じっくり・ゆっくり・たっぷりとかわることができるようにする。			
いいこといっぱい ふぞくしよう!			
第3週目	・上級生やいろいろな先生方にあいさつしたり、話したりする。	・発表の仕方を知る。 ・友達と協力して学習する。 ・文字を書いたり、数を数えたりする。	・時間への意識をもつ。 ・学習道具の整理整頓 ・靴のつま先をそろえる ・正しい廊下歩行 ・係活動や掃除への参加 等
○ 人・もの・ことに対するその子なりのよさを広げていくために、活動を個別化したり友達との交流活動を設定したりする。			
もっとできるよ ぼく・わたし!			
第4週目	・いろいろな友達と仲良く遊ぶ。	・45分間活動を続ける。 ・進んで学習に参加する。	・主な基本的な生活及び学習習慣ができるようになる。
○ 自分の姿容や成長に気付けさせるために、 <u>振り返り活動を充実させる</u> 。その際、振り返るための具体物を準備するなど、子どもの実態に応じた指導を行う。			

図2 週ごとのテーマ設定例
(鹿児島大学教育学部附属小学校の実践から)

イ 朝は、学年合同で活動する。

1校時(又は朝の活動時間)に学年全体で集まることによって、他のクラ

スの子供たちとの交流が生まれたり、学年の先生全員を自分たちの先生として意識させたりすることができる。また、みんなで活動することで、少人数の幼稚園や保育所から入学する子供の友達づくりに対する不安の解消にもつながる。その際、幼児教育で馴染んだ活動、中でも身体的な活動(指遊び、歌遊び、運動遊びなど)を取り入れたり、同様の活動パターンを繰り返したりすることで、学校生活のリズムが生まれ、安心感をもたせることもできる。

学年全体で活動する時間を、「〇〇タイム」など、子供たちにも親しみやすい名前を付けておくとよい。

ウ 生活科の「がっこうたんけん」を導入として扱う。

入学当初は、小学校生活に慣れていない子供の実態に配慮し、1単位時間1教科の学習ではなく、生活科を中心とした合科的な活動「がっこうたんけん」などを行い、身近な学校の施設に触れさせながら、新しい教育環境への適応を図るなど小学校生活への円滑な導入を図るようにする。その際、活動が、教室から校舎、校庭へと広がっていくように計画したり、探検で見つけたものを表現する活動で、他教科との合科的・関連的な活動を意識したりしたカリキュラムを作成する。どの教科等のどの内容と合科・関連させるかを計画する際は、単元一覧表を作成して単元同士をつないだり(図3)、ウェビング等を活用したりするとよい。

